

中 级



日语口语教程

日本語会話力 トレーニングブック

〔日〕 大原圣兰 编著

教学参考

 上海外语教育出版社
外教社 SHANGHAI FOREIGN LANGUAGE EDUCATION PRESS
www.sflep.com

中级

日语口语教程

日本語会話力 トレーニングブック

[日] 大原圣兰 编著

教学参考

图书在版编目(CIP)数据

日语口语教程(中级)教学参考/(日)大原圣兰编著. —上海:
上海外语教育出版社, 2013

ISBN 978-7-5446-3425-0

I. ①日… II. ①大… III. ①日语—口语—教学参考资料

IV. ①H369.9

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2013) 第 157261 号

出版发行: **上海外语教育出版社**

(上海外国语大学内) 邮编: 200083

电 话: 021-65425300 (总机)

电子邮箱: bookinfo@sflep.com.cn

网 址: <http://www.sflep.com.cn> <http://www.sflep.com>

责任编辑: 曹 艺

印 刷: 上海华教印务有限公司

开 本: 787×1092 1/16 印张 23.5 字数 579千字

版 次: 2013 年 11 月第 1 版 2013 年 11 月第 1 次印刷

印 数: 1 100 册

书 号: ISBN 978-7-5446-3425-0 / H · 1785

定 价: 39.00 元

本版图书如有印装质量问题, 可向本社调换

前言

尊敬的各位教师：

你们好。感谢你选用《日语口语教程》。

从事日语教育之始，我是这么上课的：朗读例句，学习语法，替换课文的一部分内容，再朗读……然而教科书里的场景和会话，能引发多少学生的共鸣？是不是踩中了他们的兴奋点？没多少人在意。掌握正确的语法，读懂课文……这才是那个年代的“当务之急”。

时代变了，如今重视“用日语交流”的能力。学生不光要听懂对方的话，分析其中信息，也要会表达自己，比如阐述个人观点、平等地交换看法。再者，一个人的谈吐，往往反映着他的认知水准。有的学生说，我明明听得懂对方说的，自己一张嘴，就前言不搭后语了。谈话时牢牢把握论点，不偏不倚，不卑不亢，求同存异……别说是用外语交流，即使用母语也不是一件容易的事！您或许想教会学生这些，可是苦于找不到合适的教材，备起课来费时费力。

《日语口语教程》应运而生。

让学生具备用日语进行口头交流的能力，是本教材的着眼点。学生要想提高口语水平，除了学习日语知识，还应该根据不同的场景调用大量的谈话素材，站在自己的立场上用日语进行思考，进而用日语表达。我利用授课之余编写教材，收集资料，心血凝聚成为《日语口语教程（学生用书）》。而这套《日语口语教程（教学参考）》，则是我授课的经验总结。

您选用本教材，持之以恒地教下去，学生经过初级、中级、高级三个阶段的学习，说起话来将会变得有条有理，言之有物。我甚至建议，您不妨将课堂上学生的成长历程摄录下来，让他们也见证自身的成长。

最后，我想倾听您的授课心得和来自学生的声音。让我们共同完善这套教材，让它效果更好，效率更高，更有魅力。对于我来说，最快乐的事莫过于此。

笔者 大原圣兰

「日本語会話カトレーニングブック」 について

この教科書は会話技能において言語を処理する能力「オーラルプロフィシェンシー」を高めるために開発された教材である。

この教科書で磨かれる4つの能力。

1. 語彙、文法などを使いこなす力(grammatical competence; 文法能力)
2. まとまりのある文章や会話を理解、或は算出する力(discourse competence; 談話能力)
3. コミュニケーションを円滑に進めるための力(strategic competence; 方略能力)
4. その社会で適切に言語を使用する力(sociolinguistic competence; 社会言語能力)

〈会話運用能力テストによるクラス編成〉

本教材を効果的に用いるために、OPI(Oral Proficiency Interview; 会話運用能力を測る面接)によってクラスをレベル別に編成する。それが難しい場合は学習者個々の日本語運用能力にばらつきがないクラス編成にすること。OPIとはACTFL(American Council on the Teaching of Foreign Languages; 米国外語教育協会)によって開発された汎言語的に使える会話能力テストのことである。教師は参考文献に記した解説書および論文を参考に、会話運用能力を客観的に測ることができるOPIについて知識を深めておきたい。

〈教材のレベル〉

本教材は3部に分かれており、初級にレベルAとB、中級にレベルCとD、上級にレベルEが編成されている。それぞれのレベルと目標については以下の通りである。なおこのレベルはOPIの判定基準に基づいている。

レベルA

個別の単語と丸暗記した句を使って、習ったことのある場面に関わり、最低限のコミュニケーションを行うことができる。単純な語彙を探したり、自分自身や相手の言った言葉を繰り返し使おうとしたりして、言葉がしばしば途切れる。語彙が足りなかったり、正確さに欠けたり、適切に答えられなかったりするために、外国人に慣れていて好意的な相手さえ、理解するのが難しいことがある。

目標:基本文型・文法を身に付けながら日本人の会話のスピードに慣れ、既習事項を確認、アウトプットできるようになる。自然なスピードで話せるようになるための土台を完成させる。日常生活においてすぐに役立つ表現を身につける。日本文化と中国文化を比較できるようになる。個々の学習者に向けたパーソナルな質問に答えていく過程で「もっと伝えたい」というモチベーションを高める。

レベルB

学習者は主として受け身であり、直接的な質問に答えたり求められた情報を提供しようとしたりするので精一杯である。しかし、数は少ないが、適切な質問をすることもできる。すでに知っていることと相手から聞いたことを組み合わせたり組み替えたりしながら短い文章を作って、自分の意図することを表現する。思っていることを言語に置き換えようとしているときは、適切な文や語句および語彙を探そうとして、何度も言いよどんでしまったり、努力しても不正確な話し方になったりすることが多い。頻繁に途切れたり、語句や文の再構成を試みても無駄に終わってしまったりする。誤解されて言葉を繰り返したり言い換えたりしなければならなくなることが多いとはいえ、好意的な対話の相手、特に母語話者でない人に慣れている相手であれば、普通理解してもらえる。

目標:日常生活で使えると便利で役立つ表現を数多く習得し、より豊かな表現力を身につける。衣食住やマナーなど身近な話題の中で、必要な情報を相手から引きだし、伝えられるようになる。間違いを恐れずに発話する積極的な姿勢や、仲間とプランをたてて実行していく調整力を身につける。

レベルC

職場、学校、余暇活動、特定の関心事や専門的分野に関係した基本的な情報のやりとりなど、さほど複雑でないタスクや社会的状況ならうまく対応できる。話題が広がってくると意味的や統語的に叙述や描写を維持することに失敗したり、語彙の広がりや適切さに欠けたりして言いよどむ。思っていることを言おうとして適当な語彙やふさわしい文型を探しているとき、発話が途切れたり、文や語句を再構成したり、自己訂正したりすることがある。語彙・発音・文法・統語のいずれか、またはいくつかが正確でないために誤解されることもあるが、好意的な相手にはほぼ理解してもらえる。

目標:文章をつないで、複雑な内容を伝えられるようになる。日常会話に加え、ビジネスや留学に役立つ日本文化やマナー、時事問題を日本語で討論する。「ただ単に聞かれたことに答える」というのではなく自分からプラスアルファの情報を提供したり、より具

体的な情報を引き出したりするなど、積極的なコミュニケーションが図れるようになる。日常的な場面で必要な部分において敬語の習得が完成する。

レベルD

学校・家庭・余暇活動に関係した内容について、活発に会話に参加する。また、仕事や最近の出来事・個人的・一般的な関心事について、または自分に関連のあることについても参加することがある。相手を誤解させたり混乱させたりすることなく、自分が意図したことを伝えることができるだけの十分な正確さ、明快さ、適切さを持って会話に参加でき、外国人との会話に慣れていない日本人にも理解してもらえる。ただしレベルEで要求される機能の遂行や話題を扱おうとする場合は、質的にも量的にも明らかに言語レベルは低くなってしまう。

目標:身近な話題から海外、ビジネスなど、様々な場面に自信を持って対応できるようにする。

適切な文法や構文、自然なリズムやイントネーションと発音で発話する。自分の意見をただ述べるだけでなく、相手の意見を理解し、調整できる力を身につける。不得意な分野や、会議・議論などの多少複雑な会話でもポイントをおさえれば内容を理解できるようになる。ビジネスマナーや知識、文化的背景を十分に把握し、相手を不快にさせることなく深い会話ができるようになる。

レベルE

多くのコミュニケーション・タスクを、楽に、また自信を持って扱うことができる。ほとんどのインフォーマルな場面と限られたフォーマルな場面でのやりとりにおいて、活発に参加することができる。言い換えたり、回りくどい表現になりながらもなんとか説明したり、例を挙げたりするなどのコミュニケーション・ストラテジーを自在に使いこなして、自分の文法的弱点や語彙不足を補う十分な力を持っている。複雑なタスクを遂行するように要求された場合は時々言語的挫折を起し、不適切さを露呈する可能性がある。または、難しいタスクを避ける可能性もあり、例えば、議論や仮説を構成する代わりに、描写や叙述に終始して、平易な方法に頼るかもしれない。

目標:さまざまな場面で、状況や相手との関係に合った知的な会話を楽しめるようになる。学習者自身が議論の中で相手の論理的矛盾を見抜き、話の流れをコントロールする。学習者が会話のイニシアティブを取れるようになり、センテンスを論理的に構成しながら話すようになる。広範な話題に対処できる語彙を身につけ、個々の性格や社会的地位、日本語の流暢さに相応しいセンテンスを身につける。ビジネスで不可欠な考え方を十分身につけ、企業の中でリーダーとしての資質を十分に発揮できるようになる。中日の文化だけではなく世界の主要な文化を背景に、一定の分野においては、日本を出たことがない日本人を超える表現ができるようになる。

〈レッスンに際して教師が留意すること〉

学習者用教科書の「はじめに」の中で、学習者に対しての思いを伝えると同時にレッスン受講に際して留意しておくべき事項を記したが、大切な事項なのでここに再度記す。

* * * * *

教師は

1. 学習者の意見を引き出すこと、言いたいことを的確に日本語表現できるよう補助すること、流れを整えることの三点に留意しますが、学習者の会話の流れをとめてはいけません。
2. 教壇から生徒に向かって「知識を与える」のではなく、学習者同士の会話の中に自分を置き、学習者の会話が日本語としてうまく成立するようにサポートをします。
3. 「このレッスンをすることで学習者は何ができるようになるのか」という視点を常に持ち、レッスン内の語彙や文法に縛られないようにします。
4. レッスン中、対応レベルより少し難しめの質問をいくつか混ぜるようにし、より高いレベルの表現にチャレンジする機会を学習者に与えます。学習者がうまく対応できず会話ができないと判断したときはレベルを元に戻します。
5. ビジネスに関しては表面的なマナーだけではなく、なぜそのようなマナーがあるのか、どのような考え方でどのようなをすると日本人社会でより高く評価されるのかという視点を伝えます。
6. 学習者の最終目標を「ネイティブ並の日本語」にしてはいけません。中国と日本の文化や考え方を踏まえた「ネイティブを超える日本語」を話せるようにサポートします。
7. 学習者の意見をサポートする教師自身も様々な分野に関する知識を持ち、論理的に考え、自分の意見を構築し、相手に効果的に伝えることができるようにしておかなければなりません。

〈レッスンの流れ〉

百人の教師がいれば、百通りの教え方がある。そもそも会話は一定の流れが決まっておらず、それに反応することも必要な能力であるから、流れについても個々の教師が工夫してマンネリに陥らないようにしなければならない。とはいうものの、日々授業の準備に追われる教師にとってそれは必ずしも容易なことではない。また初級の学習者にとっては一定の固定した流れの中で次の展開を予想させたほうが安心して練習に臨めるというケースもある。以下のレッスンの流れは必ずしも「こうしなければならない」というものではなく、参考程度にとどめて、ユニークで個性あふれる授業が展開されることを願っている。

〈導入〉

ユニットタイトルや導入文を参考に、学ぶ内容に関する話題を教師が提供しつつ、気持ちをセットアップする。単語リストを配りたいならばコピーして配ってもよい。時間が許すのであれば聴力向上トレーニングの一環として、教師が単語の意味を板書で補いつつ、口頭で説明する。

〈内容理解 1:冒頭〉

- 初級…教師主導による冒頭会話や写真、イラスト等の理解および発音チェック
- 中級…学習者主導による冒頭会話や写真、イラスト等の理解および発音チェック
- 上級…学習者による冒頭会話や写真、イラスト等の理解、ユニットに関する自由会話

〈内容理解 2:練習しましょう〉

「練習しましょう」をもとに会話を練習する。問題は1から順に徐々に難しくなるが、最後の問題はやや軽く簡単になっている。最後に「会話を楽しめた」という印象を残してユニットを終えることができるのであれば、問題の順番は入れ替えてもかまわない。教師は補佐役となり、学習者が会話を展開していくのを手伝うこと。

〈内容理解 3:付属音声〉

- 初級・中級…付属音声の問題部分を聞いて、自分なりの答えを言う。ぶつぶつとつぶやく感じでよい。その後付属音声の回答部分(日本人による回答例)を聞いて、スピードや話す内容を確認する。録音はユニットの練習問題と全く同じ内容のものを基本に、単語等内容の一部を変更したものも混ぜてある。
- 上級…予習段階で付属音声の日本人の会話や問題解説を聞いて、自分の意見構築の参考とする。

〈内容理解 4:まとめ〉

初級や中級で、内容理解 3の聞き取りができなかった場合は、該当ユニットを本質的に理解していないと思われる。同じユニットを再度執り行って再度聞き取り回答に臨むか、あるいは付属音声の単語や内容の説明をした上で再度聞き取り回答をさせる。

上級においては関連する国内外時事問題等に発展させる。十分な力がある場合は、ほかの学習者の意見を即座に母語に通訳する練習も取り入れたい。

〈日本語会話能力をトレーニングするにあたって〉

日本語を運用するには「相手の話を聞き取る力」と「自分の考えを説明する力」が必要である。このうち聴解力については多くの良書が出ているのでそれを頼ることにして、後者の「自分の考えを説明する力＝説明力」を磨くための教材として本書を執筆した。この教科書を用いた継続的な指導があれば、学習者は課題に応じて必要な資料等を探して意見を裏付

け、基礎的・基本的な知識を活用し、思考を深めたりまとめたりしながら説明する能力をつけていくことができるようになる。

説明力は、論理的な意見の構築力と広義の表現力とで構成される。「中国の学習者は欧米系の学習者に比べて論理的に説明する力が弱い」という指摘はよくされるし、論理的意見の展開は確かに身につけるべきなので、本書でも論理的な意見の構築力を高めるような設問を散りばめている。ただし、他者との円滑なコミュニケーションに躓く学習者をよくよく観察してみると、論理的な意見の構築力を鍛えるだけでは会話力強化に繋がらないことに気づかされる。むしろ私が見てきた学習者のコミュニケーションの場では、論理の弱さより表現力の乏しさが説明不足を生み、ネイティブ日本語話者との関係に軋轢を生じさせていた。そこで描写力や表現力が高まるような設問を意識的に多く設定するように留意した。

また、スムーズな会話運行には「相手に自分の言いたい事を理解してもらう」という行為における、表現の質の高さに支えられた訴える力の強さが求められる。円滑な人間関係を構築しようとするならば、説明によって心情的に共感するレベルにまでいかないと難しい。そのためには、まず自分が話す相手を意識しなければならない。相手を意識した説明は、自分に関する説明しかできないような初級の段階からでもしっかり心がけさせておく必要があり、学習経験を重ねる中で、より踏み込んだ相手分析ができるよう指導を重ねていかななくてはならない。相手の分析をさせ、それを踏まえた説明すべき事柄を整理させる。説明の為に収集した情報を吟味して取捨選択する力と、情報の正確さを確かめる力を本書で培っていく。設問の「調べて話し合しましょう」の場面ではぜひそれを意識して話し合いたい。

この教科書を手に取った教師は「日本語会話力トレーニング」と銘打っているにも関わらず「○字で要約しましょう」といった書く練習が含まれていることに気づくであろう。会話力にライティングの力は必要がないと思われるかもしれないが、文章の要約は会話力アップに確実に影響がある。要約する過程で文章のポイントを掴もうと集中するし、何度も推敲することで言語感覚が磨かれる。この試行錯誤の過程を経験することは、話し言葉による説明をする際に役立つ。授業で会話力を鍛える中で「要約する」という作業を取り入れたい。

さらに教師には、授業などの公的な場における説明力の育成への取り組みを学習者の私的な場での説明に反映させること、その手だてを考えていただきたい。授業の場限りのものにならないように、日常における説明の場との関連性を学習者に意識させる取り組みが必要である。学習者に「うまく説明できた」という、成果を感じることの経験が、授業などにおける説明力を鍛える場の意欲へと結びつき、さらにうまく日本語を運用していくことができるようになるという好循環を生む。日本にいるわけではない我々がそのような場を設けることは簡単な事ではないが、そこは皆様のアイデアでもって乗り越え、それぞれの教育現場の事情にあわせた生きた会話練習の場を設けていただくことを切に願っている。

この教科書は華東師範大学の陸留弟教授の温かい励ましなしには日の目を見る事はなかった。また、私の周囲にいる大切な日本語教師仲間の協力と数百名を超える可愛い学習

者達からの7年越しのフィードバックで教材として形が整った。上海外語教育出版社編集者王俊さんと曹藝さんからは適切かつ信頼おけるアドバイスをいただいた。そして上海テレビ外国語チャンネル「中日之橋」呉四海さんからは日本語を正しく美しくとらえ、伝えていくことの素晴らしさを学んだ。ここに深く謝意を示したい。

大原聖蘭

www.oharashoran.com

mail@oharashoran.com

参考文献

1. 荻原稚佳子・齊藤真理子・伊藤とく美 (2007)『日本語超級話者へのかけはしー上級から超級へ きちんと伝える技術と表現ー』スリーエーネットワーク.
2. 鎌田修・嶋田和子・迫田久美子 (2008)『真の日本語能力をめざしてープロフィシェンシーを育てるー』凡人社.
3. 鎌田修・堤良一・山内博之 (2009)『プロフィシェンシーと日本語教育』ひつじ書房.
4. 山内博之 (2009)『プロフィシェンシーから見た日本語教育文法』ひつじ書房.
5. 末田美香子・徳田有紀子・長松谷有紀 (2010)「日本語 OPIによる学部留学生の口頭表現能力の問題点: 惠泉女学園大学学部1年次の留学生を対象として」『惠泉アカデミア』14, 20-35.
6. 張毅 (2010)「中国における日本語学習者の会話能力の測定について ——skype によるOPIインタビューの試み」『比較社会文化研究』29, 53-60.
7. 向山陽子 (2010)「言語適性と第二言語の会話能力との関連 ——会話能力を予測する適性要素は何か (佐々貴義式 (佐々木嘉則)先生追悼記念号)」『言語文化と日本語教育』(39), 60-69.
8. 山川史 (2011)「学習者のヘッジ使用 OPIにおけるレベル別会話分析」『日本語教育研究』57, 124-142.

目 次

C01	使ってもいいですか？	1
	(ビジネスで上司からスムーズに許可をとる表現)	
C02	王様は裸だよ！	7
	(自らが知る情報を筋道立てて説明する)	
C03	自分を高めたいんです！	17
	(自分への投資と様々な学習スタイル)	
C04	女の仕事・男の仕事	23
	(女性と男性の役割分担について意見を述べる)	
C05	暗証番号を入力してください	29
	(使用方法や手順を説明する・手順について話し合う)	
C06	こうしていると落ち着くんだ	36
	(ストレス解消法について意見を交換する)	
C07	きっと大丈夫だよ	42
	(心配事についてアドバイスをもらう・相手を励ます)	
C08	便利なケータイ	48
	(コミュニケーション問題について話し合う)	
C09	お時間をいただきたいのですが…	54
	(電話でのアポイントの取り方)	
C10	アニメ、大好き！	59
	(アニメを通じて文化を話し合う)	
C11	アルバイトがしたい！	66
	(求人広告の見方や働く意義について話し合う)	

C12	お帰りですか？	72
	(見知らぬ人とも物怖じせず礼儀正しく話ができる)	
C13	クレームの電話だ…	77
	(クレーム応対の話し方)	
C14	捨てたもんじゃないね	84
	(自分や他人を励ます・ネットで必要な情報を得る)	
C15	私の注文したものと違います	90
	(目に見えない物の価値について話し合う)	
C16	ホームパーティーをしませんか	96
	(物事を段取りよくこなし、自分を成功させる方法を考える)	
C17	ビジネスでの自己紹介	102
	(名刺交換と初対面での一般的な会話)	
C18	どうぞ、おかけください	107
	(敬語を織りまぜて日常会話をする)	
C19	それをデザインしたのは	114
	(有名な建築物や景観に関するさまざまな見解を調整する)	
C20	互いに支えあう社会	121
	(ボランティア活動について話し合う)	
C21	こんな見方もあるよね	127
	(多角的に物事を検討し、より良い方向性を模索する)	
C22	スペースシャトルに乗りたくない	133
	(基本的な天文知識について意見を述べる)	
C23	友情は何よりも大事	140
	(プライオリティーについて見解を述べる)	
C24	聞いて!!	146
	(話題を選んで話を展開する)	

C25	挑戦するのが好きなんです	152
	(スポーツに関する知識を深めて意見を述べる)	
D01	生活に欠かせない物	158
	(便利さについて討議する)	
D02	私は以前こんな人と働いたわ	164
	(過去に出会った人について意見を述べ、現在や未来の話をする)	
D03	休日はこう過ごすのが一番!	173
	(余暇の過ごし方について意見を述べる)	
D04	嘘からでた誠?!	180
	(嘘にまつわる表現)	
D05	お二人の馴れ初めは?	188
	(結婚観について話し合う)	
D06	悩み多き年頃	198
	(学生が抱える問題について話し合う)	
D07	申し訳ありません	208
	(謝罪表現と事後のフォロー)	
D08	時間が押していますね...	213
	(プランをたて、意見を調整しながら準備を進める)	
D09	私のラッキーアイテムは!	223
	(迷信が生まれた背景への配慮と個人的意見)	
D10	子供を危険から護らなきゃ!	230
	(防犯や治安維持について話し合う・提案する)	
D11	詳細を教えてくださいませんか?	241
	(電話で情報を確認する)	
D12	高いところは苦手なんです	248
	(苦手なものや怖いものについて意見を述べる・相談にのる)	

D13	現代社会とわたしたちの生活	256
	(現代社会のキーワードを元に話し合う)	
D14	そう、そう、そう！	268
	(思い出を共有して話を盛り上げる)	
D15	音楽なしの人生なんて！	276
	(音楽に関する意見を述べる)	
D16	一歩ずつ大人に近づいて…	283
	(ティーンの見解と大人の意見)	
D17	詳しくご説明願えますか	291
	(確認しながら話をすすめる)	
D18	なんて面倒な人！	298
	(自分と他人との境界線の引き方について考えを述べる)	
D19	どんなことが不愉快なの？	307
	(日本のマナーや習慣について話し合う)	
D20	ちょっとお時間よろしいですか？	316
	(効果的に改善点を伝え、良好な人間関係を保つ)	
D21	そりゃないでしょう！	322
	(矛盾点や不条理を指摘し、行動を改善させる)	
D22	豊かな描写で伝えたい	329
	(多彩な語彙や表現で伝えたいことを的確に伝える)	
D23	こんなお気遣いまでいただいて	335
	(心に残るギフトとマナー)	
D24	お手数をおかけします	343
	(人に協力を求める)	
D25	大金持ちにならなくちゃね！	351
	(ステータスシンボルについて意見を述べる)	

使ってもいいですか

ビジネスで上司からスムーズに許可をとる表現

〈このレッスンの目的〉

1. 許可を求める様々な語彙・表現を身に付ける。
2. 社内、社外の場面に応じて適切な表現で許可をとることができる。
3. 許可を得る際に、代替案を出すなどの交渉ができる。

〈キーワード〉

日本語	中国語	日本語	中国語
許可 きょ か	许可, 准许	許す ゆる	准许
スムーズに	顺利地	休暇をとる きゅう か	请假
届 とどけ	报告	提出する ていしゅつ	提交
録音する ろくおん	录音	レコーダー	录音机
テープレコーダー	磁带录音机	カセットテープ	磁带
～(さ)せてもらう	让我…	～(さ)せていただく	请让我…
遠方 えんぽう	远处	議事録 ぎじろく	会议记录
プレゼン(プレゼンテーション)	说明会	急に きゆう	忽然
いきなり	突然	代わり か	代替
代替案 だいたいあん	代替方案	ファイル	文件
電卓 でんたく	计算器	書類 しよるい	文件
持ち出す もちだす	提出	社外秘 しゃがいひ	对外保密
取扱注意 とりあつかいちゆうい	操作注意事项	社用車 しゃようしゃ	公司用车

日本語	中国語	日本語	中国語
せんやく 先約	以前の诺言	ちよくせつ 直接	直接
かんせつ 間接	间接	たちいりきんし 立入禁止	禁止进入
がいぶ 外部	外部	かんけいしゃ 関係者	有关人员
ぶちょう 部長	部长	ぶか 部下	部下
～ことになる	变成…(状态)	～ことにする	决定…
や 辞める	辞职	とうぶん 当分	目前
じり 無理	不可能	ひとてぶそく 人手不足	人手不足
ほりゆう 保留する	搁置	けんとう 検討する	考量
かんが 考えておく	先考虑一下	しつこい 顽固	顽固
しかた 仕方がない	没有办法	しぶしぶ 渋々	勉强地

〈冒頭注釈〉

B 会議は4時に終わりますから、その後でもよろしければ…。

★ その後でもよろしければ(お貸しできますよ)。

A じゃ、後でちょっと使わせてもらいますね。

★ 使役と接受の補助動詞の組み合わせである「～せてもらう」は、Xがしようとして
いること(または実際にしていること)をYが許容するという出来事を恩恵的に表
現すると同時に、謙譲的な表現として用いられている。「～せてもらう」は「～せて
もらえませんか、～せてもらいたいのですが」など、許可を求める表現としても用
いられる。この場合「～せていただく」もよく用いられる。

〈例〉

後でちょっと使わせていただきますね。

〈練習しましょう〉

1 課長に許可を求める練習をしましょう。理由は自分で考えましょう。

練習をした後に、皆の前で発表させる。ナチュラルスピード、自然なイントネーショ
ンで行えるよう指導する。聞いている学生はメモをして、発表後に発表者の良かった
点、参考になる点など、感想を述べる。

〈例〉

A すみません、今お時間よろしいですか。